

## R-CHOP 療法の治療成績及び副作用発現率における BMI の違いによる後方視的比較検討

### 研究の意義、目的：

抗がん剤の投与量は、一般に身長、体重から体表面積を求めて計算されます。米国臨床腫瘍学会のガイドラインでは、肥満の度合いによらず、実際の体重を用いて計算した投与量での化学療法が推奨されていますが、本ガイドラインは乳がんや子宮がんといったがんを対象とした研究に基づいており、血液腫瘍に関する報告は多くありません。そこで、血液腫瘍の中でもびまん性大細胞性 B 細胞リンパ腫を対象とし、R-CHOP 療法における実際の体重に基づく抗がん剤投与量設計の妥当性について検討します。

### 研究対象、方法：

当院で 2009 年 1 月から 2012 年 12 月までに R-CHOP 療法を施行されたびまん性大細胞性 B 細胞リンパ腫の方を対象とします。患者基本情報(年齢、性別、臨床病期、国際予後因子)、再発・死亡年月日、薬剤の減量の有無、Gr3 以上の貧血、白血球・血小板・好中球減少の発現の有無、末梢神経障害発現の有無、インフュージョンリアクション発現の有無について診療録をもとに後方視的調査を行います。

### 個人情報保護に関する配慮：

診療録の閲覧は個人情報を伴いますが情報収集項目に個人情報は一切含めません。各診療録から収集した情報はカルテ番号を使って管理します。個人情報が院外に出ることはありません。ご自分がこの研究の該当者かもしれないと思われた方でお問い合わせのある方は下記照会先までご連絡ください。ご希望があれば、その方の診療録から得られる情報は研究に使用しないように致します。

### 問い合わせ・苦情等の相談窓口：

〒277-8577 千葉県柏市柏の葉 6-5-1

国立がん研究センター東病院 薬剤部 馬見新 佳那子

TEL 04-7133-1111(内線 92319)/FAX 04-7134-6879